

# 天草陶石で人物表現

彫刻家 勝野 真言さん(62) = 熊本市

近況

天草陶石を使った人物表現を続ける彫刻家の勝野真言さん。熊本市中央区



光沢があったり、艶がなかったり、まだら模様にもえたり…。天草陶石のさまざまな「白磁」の表情が、人物像の顔や体のくびれに現れている。長野県出身。崇城大に赴任して10年がたつ。試行錯誤しながら、素材と向き合う。

「天草陶石はとても難しい」。白の純度の高さに魅せられたものの、大型の立体彫刻を作る場合、1300度の高温で焼き上げないと、「豆腐のように柔らかくなる」

と明かす。窯から人物像を出した時に倒れたり、くぼみができたりと、初めはトラブル続きだったという。

リスクの高さに一時悩んだが、成形する際に人物像の内側を補強し、たわみも考慮。作品は、窯に入る前の状態に近付いてきたという。「立体の紙に鉛筆を走らせるように、石灰や泥をかけたりにしている。釉薬を扱つのは難しいけれど」。心境の変化も作品づくりに影響しているようだ。実は長年、色弱がストレスだった。彫刻を志したのも画家よりは支障が少ないと感じたから。50代になって初めて周りに打ち明けたところ、受け止めは意外なほどあっさりしたものだっただけという。

いつしか自分を見つめながら作るようになった人物像。「昔は自分の作品が嫌いだったが、最近はその代わりになってくれている気がする」とほほ笑む。

(中原功一朗)

※勝野さんの彫刻展は、熊本市中央区の崇城大ギャラリーで27日まで開かれている。